

## 仕事と家族と私

内外エンジニアリング株式会社  
技術一部 プロジェクトリーダー

● 苗村志岐子  
なえむらしきこ

### 農業土木との出会い

私の出身地は福岡県久留米市で、私が住んでいたのは市中心部から離れた農業地帯です。北には筑後川が流れ、南には耳納連山が連なり、これらに挟まれて平坦な農地が広がっています。水稲を主体として大根やほうれん草などの野菜栽培が盛んで、山地部では巨峰や柿などの果樹園が営まれています。実家は学区の一番端にあり、小学校まで子どものもので徒歩四〇分程度、延々と広がる農地の間を毎日歩き、通学路の途中には牛舎が二軒あるなど、農地や水路、家畜などがごく当たり前に身近にありました。

父が登山好きで、ほぼ毎週末家族で山登りに出かけ、毎日の通学に加えて週末の登山で私の基礎体力はしっかり培われたようです。中学、高校も家から遠く自転車を通い、大学ではボート部に所属するなど、まさに体育会系の道を進んでいきました。

高校生の時、アフリカに援助に行かれていたシスターの帰国講演があり、アフリカの貧しい現状を聞き衝撃を受けました。この時に海外には支援が必要な人がいることを知り、何か技術を身につけて海外で出来ることはないかと進路を模索し始めました。その中で農業土木を知ることになり、農業土木を学べる大学に進学し、現在の内外エンジニアリング株式会社に入社することになりました。

### 仕事のこと

会社に入社して今年で二年目になりますが、現在は主に計画分野の業務に携わっています。近年は、事業採択申請資料の作成や市町などの農業や農地に関する計画書作成を行っています。出産前までは、環境配慮などに関するワークショップや生物調査業務にも数多く携わり、地域の子ども達への環境学習、魚や希少植物の引越しイベントなどのお手伝いも行ってきました。

今までで一番印象深い業務は、関東のある地区での環境配慮に関する業務で、四地区で各三回、合計二二回のワークショップを行うものでした。全二二回のワークショップの企画立案、発注者や参加者との日程調整や当日の進行、各回の結果のとりまとめ、また、京都から関東の現地に向くため、工程や社内体制の調整等本当に苦労しました。ワークショップは地域の方が参加しやすいよう平日の夜や土日に開催することが多いため、週末も泊まりで出かけ、何度も新幹線で往復しました。ようやく全工程を終え、最後の結果報告の帰りに地域の方からチップの花束を頂いた時は、このワークショップが地域の方にとつて少なくとも悪い評価ではなかったと実感でき、とても嬉しかったのを覚えています。



計画に携わったビオトープ池にて



休日は子ども達とおでかけ

## 家族のこと

現在は、四歳と二歳の子どもを育てながら時短勤務という形で勤務させて頂いています。毎日朝食をなかなか食べない子ども達を急かし、嫌がる子どもを追いかけながら着替えさせ、やっこのことで保育園へ送り出します。夕方仕事を終え保育園に急いで迎えに行くものの、園庭や遊具で遊び出してなかなかすんなり帰ってくれません。帰宅後は子ども達の世話で手一杯で、自分の食事もままならず息つく暇もない状態です。子ども達との生活は予定通りには全く進まず、毎日ドタバタとあつという間に過ぎ、加えて抱っこ抱っこで私の上半身はすっかり大学のポト部時代のように逞しくなっています。

一人目の妊娠の時は、子育てと仕事を両立する自信が全くなく、今後の事がとても不安でした。子どもの発熱などで保育園からの急な呼び出しがあった場合に対応できるのか、そもそも時間的に仕事や家事をこなせるのか等々不安はつきませんでした。

一人目の育児休暇明けは、早速子どもが発熱で保育園から連日呼び出しがあり、治ってもまたすぐに別の病気をもらうなど、最初の出勤月は出勤出来たのが半分ほど。ある程度予想していたとはいえ、思うようにいかない子ども達の保育園生活と進まない仕事にすっかり自信がなくなり、気持ち折れてしまうことも度々でした。それでも暖かく気長に見守り、仕事の調整をして頂いている職場には本当に感謝があります。

その後二人目を出産しましたが、二人目ともなると子どもの発熱ぐらいでは動じないくらい私も少々図太く成長し、職

場や夫の支えもあり、現在も仕事を続ける事が出来ています。毎日日本当に大変ですが、それでも子ども達の愛くるしい笑顔と日々のめざましい成長を見守ることが出来るのは、他では得られない本当にかげがえのないものです。

## これからのこと

働き方改革が叫ばれるようになり、建設業界もノー残業デーの定着や残業時間の低減などが進められており、ひと昔前のハードなイメージはだいぶ変わってきたと思います。私自身もまさか二人の子どもを育てながら仕事を続けることが出来るとは、正直思っていませんでした。大切なのは、仕事を続けていく上での不安や調整して欲しいことなどを素直に職場や夫などの家族に相談すること、相談出来る環境だと思っています。子育てに限らず、自身や家族の病気をはじめ、生活に様々な転機が訪れるのは女性だけではありません。これからは、様々な人がそれぞれ望むライフスタイルにあった仕事ができるようになることが、ごく自然で当たり前になることを望んでいます。

さて次号は、株式会社奥村組でご活躍の阿部友美さんにバトンを渡したいと思います。

苗村さんからのバトンを受け取りました。次号では、トンネル工事に従事して感じたことや、働き方改革への取り組みなどについてお伝えします。よろしく願います。

株式会社奥村組 東北支店

大岩川トンネル工事所

阿部 友美

